

スーパーFJ 筑波・富士シリーズ第7戦
Fuji Champion Race Serie
S-FJ ジャパンチャレンジ 第6戦
2021年 11月 20日 天候:晴れ 参加17台



テキスト:はた☆なおゆき

2年目の筑波・富士シリーズも、これが最終戦となり、今年最初で最後の舞台となる、富士スピードウェイで11月20日(土)に予選、決勝レースが「富士チャンピオンレースシリーズ第4戦」で開催された。

ここまでの6戦が筑波サーキットで行われていたのは、言うまでもなく富士が東京オリンピック・パラリンピックの自転車競技の会場になっていたからだ。晴れの祭典が終了したものの、引き続き「筑波・富士」というスタイルは継続されるようだ。現状でレース数は不明ながら、もう少し富士のレースを増やして欲しいという、関係者の声は多かった。

さて、気になるタイトルの行方だが、候補はすでにふたりに絞られている。ここまで3勝をマークしている野島遼葵選手(Deep-R・10V・ED)と、優勝は1回だけだが、2位は4回と絶対の安定感を示す安田航選手(Fガレージ&SウィングスKK-S11)だ。前回のレースは接触し、ともに不本意な成績に終わっているが、最終決戦がこういった様相を呈するのか、大いに注目されるどころだ。このふたりに予選前、ここまでの6戦を振り返ってもらおうとともに、過去のレースキャリアを聞いてみた。まずは野島選手。2001年6月7日生まれの20歳だ。

「レーシングカートを5歳から10年ぐらいやっていて、自分がやった中では全日本のFS125が最上位カテゴリーです。去年からスーパーFJに出始めて、今年から本格的に、って感じです。シリーズ前半は良かったんですけど、後半になるにつれてリズムが崩れ、好ポジションにはいられなくなって。ちょっと不甲斐ない結果になっちゃっているかな、という感じです。前回は接触して、ほぼ最下位みたいなもんです。富士のレースは初めてなので、仕切りみたいになればいいんですけど。安田選手の前に何としても出て、チャンピオン獲りたいと思います」

そして安田選手。2000年5月20日生まれの21歳だ。

「カートレースを約5年やっていて、そこから一回レースを離れたんですが、縁があってスーパーFJに乗らせていただいて、今年が1年目になります。最初は分からないことばかりで、いろんなこと学びながらやってきて、後半にはまあ成長できているのかなと思っています。今回、最終戦ですがチャンピオンの可能性はまだあるので、そこを目指しています。富士は走るのも初めてなので、練習の2本でなんとか慣れて、明日は少しでもポイントを獲りたいですね。鈴鹿から来ている人もいるので、自分の今いる位置も知りたいし、楽しみではあります。とりあえず今のところはまだ前向きです（笑）」

また、安田選手のコメントの中にもあるとおり、今回は「スーパーFJジャパン・チャレンジ」とのWタイトルということもあり、鈴鹿を主戦場とするドライバーも参加していて、少なからずふたりのチャンピオン争いにも影響を及ぼしそうだ。鈴鹿シリーズ2位の佐藤巧選手（MYST. KK-S11. 制動屋）や4位の富田自然選手（MYST KK-S11）、5位の森山冬星選手（MYST）といった有力どころが、初めて挑む富士で、果たしてどれだけ適応力を見せてくれるのか？

すでにチャンピオンを決めている岡本大地選手を筆頭に、現時点でのトップ5が欠場しているのは残念ながら、岡山大会に出場していた富田選手は、ランキング3位にまで上げられる可能性がある。そのあたりも、ひとつ注目すべきポイントになるだろう。

《公式予選》

予選、決勝を土曜日のうちに行う1デイイベントということもあり、予選は8時15分から20分間の計測となった。もう11月も下旬とあって、早朝の路面状態が心配されたものの、むしろ温度は低過ぎず、高過ぎず、アタックには最適な条件となっていた。



まず先手を切って、トップに躍り出たのが富田選手。計測2周目には1分54秒台、3周目には53秒台に叩き込む。このまま短縮し続けるのかと思われた矢先に、突然ノーマークの存在が1分53秒166を出してトップに立つ。

それもそのはず、稲葉摩人選手（ZAP SPEED 10V ED）は今回がデビューレース！ 18歳になった

ばかりの現役高校生は、そのままタイムを縮め続けて、ラスト3周は1分52秒台を連発、1分52秒559をベストタイムとした。2番手はラストアタックで1分53秒080にまで詰めていた富田選手ながら、それでも差はコンマ5秒にも。

そして、3番手は前回の筑波で、デビュー戦3位で話題を集めた田上蒼竜選手(ZAP SPEED 10V ED)で1分53秒284をマーク。しかし、3人ともに予選後の表情が硬い。揃いも揃ってペナルティを受けていたからだ。稲葉選手は数回の走路外走行、ピットレーンの速度超過で、3グリッドずつ6グリッド、富田選手は黄旗区間の追い越し、田上選手は複数の走路外走行で、4グリッド降格を命じられていた。

これにより、繰り上がってポールポジションを獲得することとなったのが、1分53秒374の佐藤選手で、2番手は1分53秒453の森山選手。そして、2列目にはチャンピオンを争うふたりが並ぶこととなり、安田選手が1分53秒937で、1分53秒975の野島選手を僅差で従えていた。

ポールポジション：佐藤巧望選手(MYST. KK-S11. 制動屋)

「練習から地元勢のオレンジのクルマが調子良さそうだったので、途中ターゲットに定めて走っていたんですけど、なんか単独の方がタイム出ましたね。富士は初めてで、昨日2本しか走行なかったんで、最初はコースに慣れるところから始まって、正直つかみ切れていないんです。決勝はどうなるんでしょうね？ たぶんスリップ合戦になると思うんですけど、日本一決定戦につながるようなレースをしたいです」

予選2番手：森山冬星選手(MYST)

「予選はそんなに速いわけではなかったんです、今週ずっと。昨日、走ったばかりですから。たまたま2番手からスタートを切れることになりました」

予選3番手：安田航選手(F ガレージ&S ウインズ KK-S11)

「スリップをうまく使って予定だったんですが、序盤にコカコーラコーナーでスピンしちゃって、そこから単独になったんです。前後見てもクルマはいなかったんで、ペース落としてタイヤ冷やすよりは、もう単独で行った方がいいと思って、とりあえず必死にアタックして。やっと3秒入ったぐらいで終わった、失敗した予選でした。タイトルよりもこのレースで上に行きたい思いが強く、鈴鹿の速い人より上に行きたいので、前だけ見て決勝走ろうと思います」



《決勝レース》

12周で争われる決勝レースは、12時30分からスタート進行を開始。予選を走った17台のうち、1台も欠くことなくグリッドに並べられた。フロントローの佐藤選手、森山選手はともに好スタートを切って、まずは佐藤選手が1コーナーへのホールショットに成功。これに野島選手が続いていた。トップグループは団子状態、激しいバトルがそのまま続いていくと思われた。

しかし、100Rでコントロールを失った車両がヘアピン入り口でクラッシュ！ 即座にセーフティカー（SC）が導入されることとなった。SCの先導は4周目まで続き、5周目にリスタート。ここでいきなり見せたのが、注目の稲葉選手だった。最初のスタートでひとつ順位を上げていたばかりか、リスタート後に3番手にまで躍り出たのだ。次の周には佐藤選手、森山選手、稲葉選手の順で、団子状態で戻ってくるも、1コーナーでの入れ替わりはなし。



だが、7周目には順位の入替えが。1コーナーで森山選手がトップに立って、ヘアピンでは稲葉選手が2番手に浮上。勢いに乗る稲葉選手は8周目のストレートで、森山選手のスリップストリームから抜け出し、待望のトップに躍り出る！

一方、その後方では富田選手と野島選手、田上選手が4番手を争い、少し離れて安田選手という陣形に。だが、8周目に野島選手が抜け出したのとは対照的に、富田選手にドライビングスルーペナルティの指示



が。リスタートの際、追い抜き可能なラインを勘違いしてしまったためだ。やむなく10周目にピットロードに進み、上位争いから離脱してしまう。

トップに立った後の稲葉選手は、そのまま逃げの構えに入り、逆に2番手争いがいっそう激しくなって、9周目の1コーナーには4台が並んで飛び込んで行く光景までも。ここで前に出たのが佐藤選手だった。その後も野島選手と森山選手が、最後まで激しく3番手を競い合い、毎週のように順位を入れ替えていたが、辛くも野島選手が逃げ切りに成功。そして、最後まで諦めず、野島選手に追いつこうとしていた安田選手は、最終ラップのコカコーラコーナーで、痛恨のオーバーシユートが。田上選手の先行を許すに留めたものの、タイトル争いにはこれで決着が。野島選手が筑波・富士シリーズのチャンピオンを獲得すること



になった。

そして、最後はわずかに佐藤選手が差を詰めたものの、稲葉選手は逃げ切り果たしてデビューウィンを達成！ まさに衝撃の一戦となったのは間違いない。

そして、最後はわずかに佐藤選手が差を詰めたものの、稲葉選手は逃げ切り果たしてデビューウィンを達成！ まさに衝撃の一戦となったのは間違いない。



優勝：稲葉摩人選手（ZAP SPEED 10V ED）

「いや～、でもドチドキでした、プレッシャーもありました。抜いてきたのは全部1コーナーです。レース中は本当に落ち着いて、普段の練習どおり平常心で走っていて、むしろ練習より安定して走っていました。ただ、後半こそ後ろばかり見ている、集中力が切れかけた部分もあったのは反省点です。デビューウィンを、本当に勝つこと以外は考えていなかったもので、トップに立つまではいかに抜こうかってことばかり考えていて、チャンスがあったらすぐ入っていました。

日本一決定戦は僕、今年はないんです。さっきも2位の選手に聞かれ、『すいません』って(笑)。ええっ、出ないのかよって言われました」

2位：佐藤巧望選手 (MYST.KK-SII. 制動屋)

「2位を3台か4台で争っていたんですが、その間にトップを逃しちゃったのは痛手でしたね。けっこう想像どおりで、やっぱりスリップ合戦でした。2位でこちゃこちゃやっていたのに悔いが残りますけど、それがなければもっと違った展開になっていたのかな。僕の本当のターゲットは日本一決定戦なので、そっちで勝ちたいです！」

3位&筑波・富士シリーズチャンピオン：野島遼葵選手 (Deep-R・10V・ED)

「めちゃくちゃ嬉しい！ 最後の方でやっと自分らしい走りができたと、良かったです。違ったコースに来てフレッシュになったというか、筑波とは全然違うじゃないですか、レースの仕方が富士では。苦しい部分もあったんですが、全然楽しかったので、今の結果が出ているのかわかると感じます。また、いろんなことを自分で吸収できたので、すごくいいレースになりました。日本一は出るか出ないか、なんとも言えないです、金銭的に……。出たいんですが、自分だけでは決められないので」

№ 5

JAF 筑波/富士 Super FJ 地方選手権シリーズ 第7戦

S-FJ 公式予選

2021/11/20 9:55



正式結果表

Weather : Fine
Track : Dry

Fuji Speedway(4.563m)

Pos	No	Name	Car	Type	Best Time	Lap	Gap	Ave. km/h
*1	1	9	植菜 摩人	ZAP SPEED 10VED	RD10V	11		145.939
*2	2	19	富田 自然	MYST KKS-II	KKS-II	11	0.521 0.521	145.257
*3	3	13	田上 善竜	ZAP SPEED 10VED		11	0.725 0.204	145.005
	4	56	佐藤 巧望	MYST.KK-SII.制動屋	KK-SII	11	0.815 0.090	144.890
	5	87	森山 冬望	MYST		11	0.894 0.079	144.769
	6	52	安田 誠	F3レーズ&Sウイング SII	KKSSII	11	1.378 0.484	144.174
	7	66	野島 遼葵	Deep-R・10V・ED	RD10V	11	1.416 0.038	144.126
	8	10	坂野 貴毅	ZAPレーズ・チービス10V	RD10V	11	1.535 0.119	143.976
	9	59	松田 大輝	MYST KK-SII		11	1.647 0.112	143.835
	10	15	竹上 裕樹	FER KK-S II	KK-S II	11	1.947 0.300	143.458
	11	8	野村 大樹	WRS NOMURA10V	RD10V	11	2.817 0.870	142.376
	12	17	安藤 弘人	ZAP SPEED 10VED	RD10V	11	3.066 0.249	142.070
	13	73	下村 剛司	Sウイング KENS2ED	2ス KKS2	10	3.142 0.076	141.976
*4	14	34	村上 隼斗	新潟国際自動車フォーエス EDKKS	KKS	10	3.167 0.025	141.946
	15	3	秋山 健也	スーパーウイング KKS・ED	KKS	10	4.075 0.905	140.841
*4	16	38	小林 隼太	新潟国際自動車フォーエス EDKKS	KKS	10	5.124 1.049	139.585
*5	17	16	大貫 直実	グレート1スパンF109	ZAP F109	8	6.993 1.869	137.403

***** 以上予選通過 (226.866 - 130%) *****

Entry :17 Start :17

*1 CarNo.9は、富士スピードウェイ一般競技規則第5章第17条3.(定路の安全規定、定路外走行複数回)違反により、予選結果より3グリッド降格のペナルティを科す。
CarNo.9は、富士スピードウェイ一般競技規則第9章第40条2.(ピットレーンの速度規制)違反により、予選結果より3グリッド降格のペナルティを科す。
*2 CarNo.19は、H項(黄旗区間の追越し)違反により、予選結果より4グリッド降格のペナルティを科す。
*3 CarNo.13は、富士スピードウェイ一般競技規則第5章第17条3.(定路の安全規定、定路外走行複数回)違反により、予選結果より4グリッド降格のペナルティを科す。
*4 CarNo.34, 38は、富士スピードウェイ一般競技規則第9章第40条2.(ピットレーンの速度規制)違反により、予選結果より1グリッド降格のペナルティを科す。
*5 CarNo.16は、富士スピードウェイ一般競技規則第9章第40条2.(ピットレーンの速度規制)違反により、予選結果より2グリッド降格のペナルティを科す。

JAF 筑波/富士 Super FJ 地方選手権シリーズ 第7戦

S-FJ 決勝レース

2021/11/20 14:30



正式結果表

Weather : Fine

Track : Dry

Fuji Speedway(4,563m)

Pos	No	Name	Car	Type	Lap	Total Time	Ave. km/h	Gap	Best Time	Lap
1	9	稲葉 摩人	ZAP SPEED 10VED	RD10V	12	27'31.635	118.687		1'53.118	5
2	56	佐藤 巧望	MYST.KK-SII.制動屋	KK-SII	12	27'33.158	118.577	1.523	1.523	11
3	66	野島 遼葵	Deep-R・10V・ED	RD10V	12	27'35.265	118.426	3.630	2.107	12
4	87	森山 冬星	MYST		12	27'35.340	118.421	3.705	0.075	10
5	13	田上 蒼電	ZAP SPEED 10VED		12	27'41.172	118.005	9.537	5.832	8
6	52	安田 航	Fカレッジ&Sウィンス SII	KKSSII	12	27'41.336	117.994	9.701	0.164	8
7	10	坂野 貴毅	ZAPムトゥ・サービス10V	RD10V	12	27'43.343	117.851	11.708	2.007	11
8	15	竹上 裕樹	FER KK-S II	KK-S II	12	27'46.527	117.626	14.892	3.184	10
9	59	松田 大輝	MYST KK-SII		12	27'46.568	117.623	14.933	0.041	11
10	8	野村 大樹	WRS NOMURA10V	RD10V	12	27'58.450	116.791	26.815	11.882	8
11	17	安藤 弘人	ZAPSPEED10VED	RD10V	12	28'00.248	116.666	28.613	1.798	10
12	34	磐上 隼斗	新潟国際自動車コースEDKKS	KKS	12	28'01.170	116.602	29.535	0.922	12
13	3	秋山 健也	スーパーウィンス'KKS・ED	KKS	12	28'02.246	116.527	30.611	1.076	12
14	73	下村 剛司	Sウィンス'KENS2ED	ミストKKS2	12	28'02.290	116.524	30.655	0.044	11
*1	15	富田 自然	MYST KKS-II	kks-II	12	28'13.328	115.764	41.693	11.038	8
16	38	小林 雄太	新潟国際自動車コースEDKKS	KKS	12	28'20.419	115.282	48.784	7.091	10

***** 以上完走 (規定周回数 10Laps) *****

16 大貫 直実 グレート1スズバンF109 ZAP F109 0



